

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教 員一人 あたりの 在籍学 生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち	助手			
							理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				
理学療法 学科・作 業療法学 科	0人	0人	6人	0人	6人	6人	6人	0人	人	人	
課程	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
計	0人	0人	6人	0人	6人	6人	6人	0人	人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

教育課程

神村学園専修学校 理学療法学科

分野	指定規則 教育内容	担当授業 科目名	担当コマ数	担当職員		
				氏名	職名	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	心理学	15	谷口慶子	兼任	
		哲学	15	塚村光司	兼任	
		教育学	15	山下みどり	兼任	
		社会福祉学	15	重久晃一	兼任	
		生物学	15	鮫島正道	兼任	
		物理学	15	立石洋	専任	
		統計学	10	田川知恵子	専任	
		保健・体育Ⅰ	10	三原栄依	兼任	
		保健・体育Ⅱ	10	三原栄依	兼任	
		音楽	10	柏木祐香	兼任	
		社会学	15	山下みどり	兼任	
		臨床IT	10	田川知恵子/藤村勇人	専任/専任	
		一般英語	15	上村真之	兼任	
		国文学	15	大橋晶子	兼任	
			小計	185		
専門基礎分野	体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	30	田川知恵子/立石洋/寺師拓斗/藤村勇人	専任/専任/専任/専任	
		解剖学Ⅱ	30	田川知恵子/立石洋/寺師拓斗/藤村勇人	専任/専任/専任/専任	
		生理学Ⅰ	30	田川知恵子/立石洋/寺師拓斗/藤村勇人	専任/専任/専任/専任	
		生理学Ⅱ	30	田川知恵子/立石洋/寺師拓斗/藤村勇人	専任/専任/専任/専任	
		運動学Ⅰ	20	吉野慶子	専任	
		運動学Ⅱ	20	吉野慶子	専任	
		人間発達学	10	田川知恵子	専任	
		臨床心理学	15	佐藤田大志	兼任	
		疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学	15	吉田愛知	兼任
			一般臨床医学	30	立石洋/福島洋子/上野多吉子	専任/兼任/兼任
			整形外科Ⅰ	15	寺師拓斗	専任
			整形外科Ⅱ	15	藤村勇人	専任
			内科学	20	富宿明子	兼任
			老年期学Ⅰ	10	岩瀬俊	兼任
			老年期学Ⅱ	10	岩瀬俊	兼任
小児科学	15		川島清美	兼任		
神経内科学Ⅰ	10		中森健二	専任		
神経内科学Ⅱ	10		中森健二	専任		
精神医学Ⅰ	10	佐藤田大志	兼任			
精神医学Ⅱ	10	佐藤田大志	兼任			
保健医療福祉と リハビリテーションの理念	リハビリテーション概論Ⅰ	10	中森健二	専任		
	リハビリテーション概論Ⅱ	10	中森健二	専任		
	リハビリテーション医学	20	藤村勇人	専任		
	小計	395				
P T 専門	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅰ	15	寺師拓斗	専任	
		理学療法概論Ⅱ	15	立石洋	専任	
		臨床運動学Ⅰ	10	吉野慶子	専任	
	理学療法管理学	臨床運動学Ⅱ	10	吉野慶子	専任	
		理学療法管理学	15	田川知恵子	専任	
		理学療法評価学	20	藤村勇人	専任	
	理学療法治療学	理学療法評価学実習	30	寺師拓斗	専任	
		日常生活活動	15	原田電治	兼任	
		日常生活活動実習	15	原田電治	兼任	
		運動療法Ⅰ	15	吉野慶子/藤村勇人	専任/専任	
		運動療法Ⅱ	15	中森健二	専任	
		運動療法実習Ⅰ	15	吉野慶子/藤村勇人	専任/専任	
		運動療法実習Ⅱ	15	寺師拓斗	専任	
		物理療法	10	立石洋	専任	
		物理療法実習	15	立石洋	専任	
生活環境論		10	岩瀬俊	兼任		
義肢装具学Ⅰ		15	吉野慶子	専任		
義肢装具学Ⅱ		15	吉野慶子	専任		
疾患別理学療法Ⅰ		15	中森健二	専任		
疾患別理学療法Ⅱ		15	中森健二	専任		
疾患別理学療法Ⅲ		15	寺師拓斗	専任		
疾患別理学療法Ⅳ		15	藤村勇人	専任		
疾患別理学療法Ⅴ		10	竹内直人	兼任		
疾患別理学療法Ⅵ		10	田川知恵子	専任		
疾患別理学療法Ⅶ		15	立石洋	専任		
疾患別理学療法Ⅷ	10	榎並阿一	兼任			
疾患別理学療法Ⅸ	10	榎並阿一	兼任			
研究方法論	10	寺師拓斗	専任			
地域理学療法学	地域理学療法学Ⅰ	15	田川知恵子	専任		
	地域理学療法学Ⅱ	15	田川知恵子	専任		
臨床理学療法学(基礎) 臨床理学療法学(専門)	総合特論Ⅰ	30	吉野慶子	専任		
	総合特論Ⅱ	30	吉野慶子	専任		
臨床実習	見学実習	20	寺師拓斗	専任		
	評価実習Ⅰ	40	藤村勇人	専任		
	評価実習Ⅱ	80	藤村勇人	専任		
	総合臨床実習Ⅰ	160	吉野慶子	専任		
	総合臨床実習Ⅱ	160	吉野慶子	専任		
	小計	945				
	合計	1525				

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習	1年次後期	理学療法評価法	1年次前期
評価実習Ⅰ	2年次前期	理学療法評価法実習	1年次前期
評価実習Ⅱ	2年次後期	運動療法Ⅰ,運動療法実習Ⅰ	2年次前期
地域理学療法実習	2年次後期	地域理学療法ⅠⅡ	2年次前期, 後期
総合臨床実習Ⅰ	3年次前期	疾患別理学療法Ⅰ～Ⅸ,運動療法, 運動療法実習	2年次前期, 後期
総合臨床実習Ⅱ	3年次前期	疾患別理学療法Ⅰ～Ⅸ,運動療法, 運動療法実習	2年次前期, 後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	学校評価委員会
委員名(委員長)	神村 慎二
組織の開催頻度	年2回
組織の取り組み内容	学校全体から実施する自己点検・評価
	各学科が行う自己点検・評価の把握
	内部質保証に対する必要な取り組み
自己点検・評価結果の公表	学校ホームページ

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
○	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	学校自己点検・評価委員会
	委員構成等	副校長・教頭・各学科長・各教務主任
	改善の仕組みの実際	教員による自己評価・学生による他者評価の把握と必要な取り組みの検討

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価の結果に基づく改善活動を支援する体制作りとして、問題点の明確化と改善の取り組みを、各組織長や学科長が半期ごとに進捗を確認する機会を設け、「学校評価委員会」に報告することで継続して取り組むことが可能となる。